

植物棚のいえ

植物の棚に寄り添う地域共生型のいえ

梨棚のような植物棚のうえにふわりと浮かぶ屋根のいえ。

商店街やオフィスビルなどびっしりと立ち並ぶ都市環境に

歴史や水や緑を活かした地域の営みに寄り添う小さないえを計画します。

まちに開かれたのびやかな植物棚のビロティは、

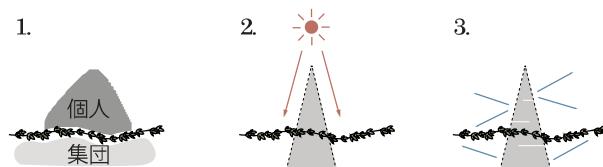
地域で生活する方や県内、県外の方が集い、まちの核となるような

地域のあたらしい拠り所となります。

この場所に訪れた人が、愛着を持って自分の居場所として過ごし、

過ごした人の数だけ過ごし方の特性があるような場所を目指す。

1 いえの構成 | ゾーニングと環境との対話



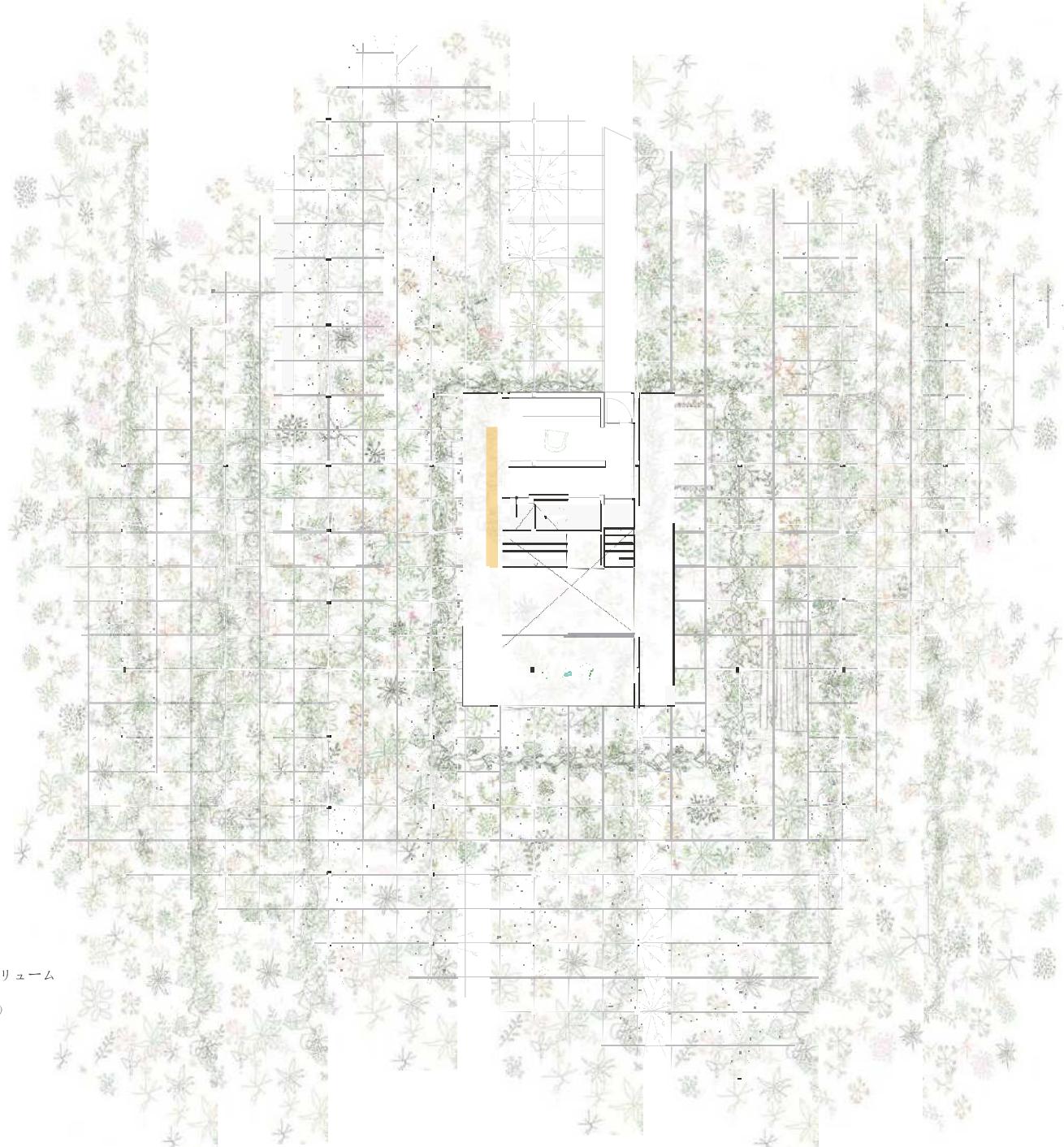
1. 植物棚に対して「集まる機能」と「過ごす機能」を分断するビロティと屋根ボリューム

「集まる機能」：誰でも気軽に自分の居場所として過ごすことができる場所

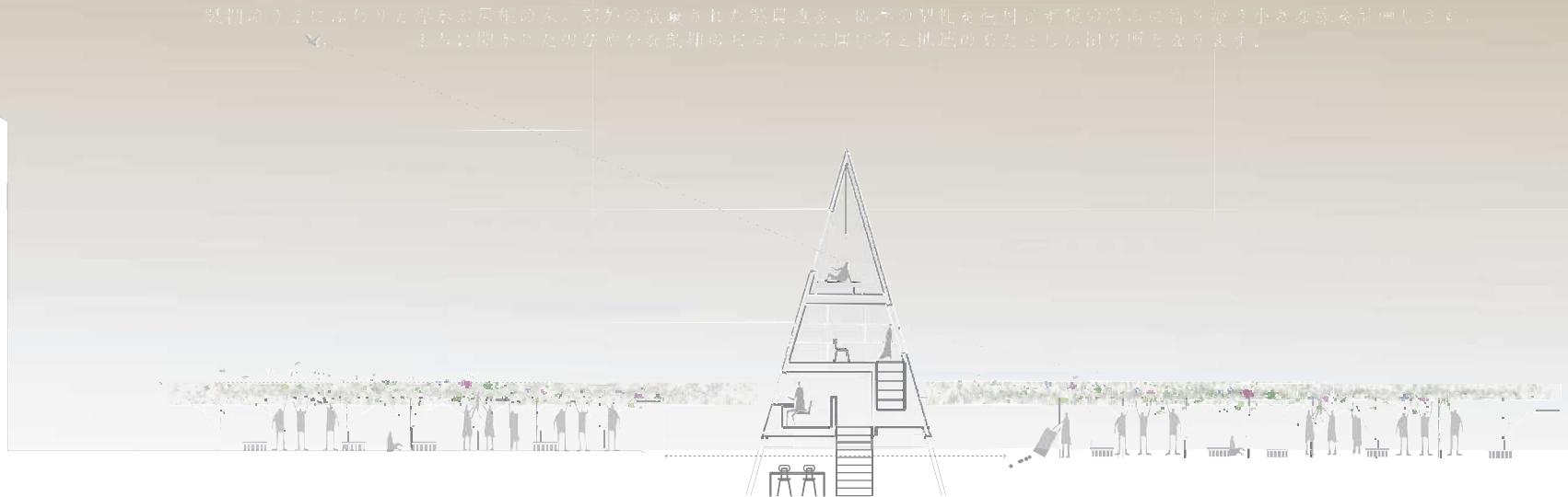
「過ごす機能」：いえのリビングのように個人がくつろげる場所（時に宿泊施設やシェアオフィスやCAFEなど）

2. 三角形断面により日射を最大限確保するようにトラスをつくる。

3. 半層ぎらし、開口部を設けることで物見としての多様な視点をつくる



梨園のうえには丸い木盤が点風船の家。だがの収穫された梨農地を、他の梨園を駆け足する梨の販路に寄り添う小さな家を計画します。
また、この家は梨園を開かれたの母やかの梨園の母子は、子は居住者と地域のあたりで梨の栽培園になります。



1 都市近郊農地の可能性 | 富山県富山市

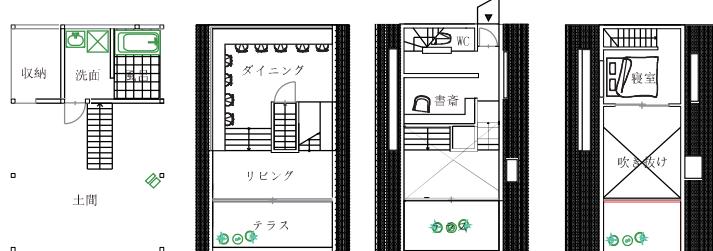


敷地は梨（呉須梨）の産地である富山県。成熟した都市型社会において都市近郊の農地は、景観保全や防災、市民に自然とふれあう機会を保護する上で重要である。梨に限らず、緑や水や歴史がまち全体を繋げるきっかけとなる。

2 畑と家の居職 | 自立型から共生型農業へ

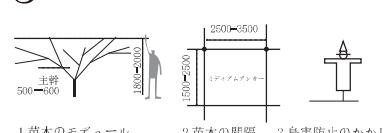


梨は人工授粉を要し人手が必要な為、高齢化で畠を放棄する農家が多い。そこで從来分散していた畠と家を集約し展開することで受粉作業や過程を杜撰へ開き、雇用やお雇分けとして還元する。この家は、地域に開いた居場所となる。



plan 1/150

3 梨栽培のための 3 つの要素

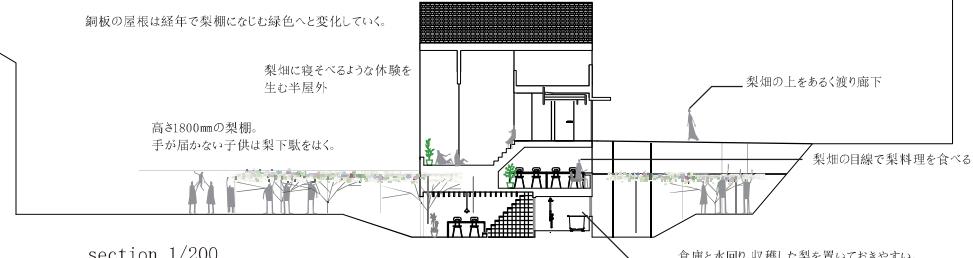


1 苗木のモジュール
2 苗木の間隔
3 烏害防止のかかし

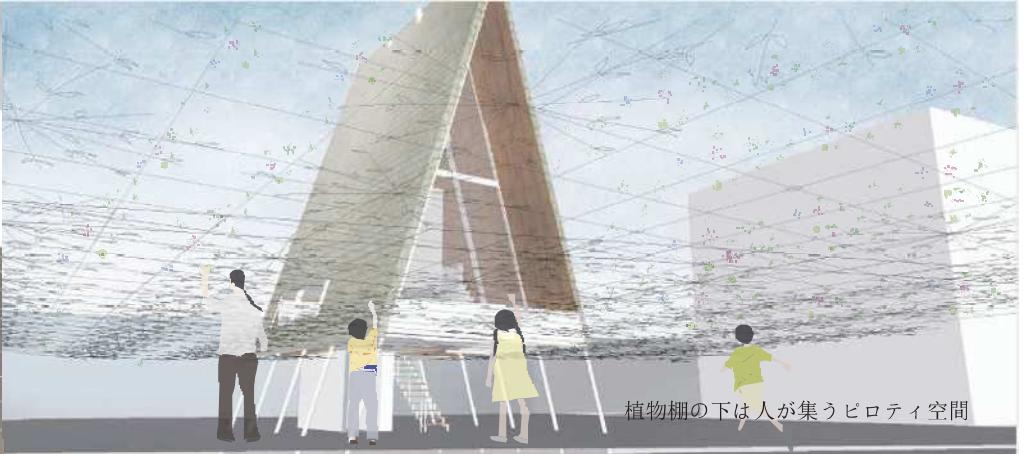
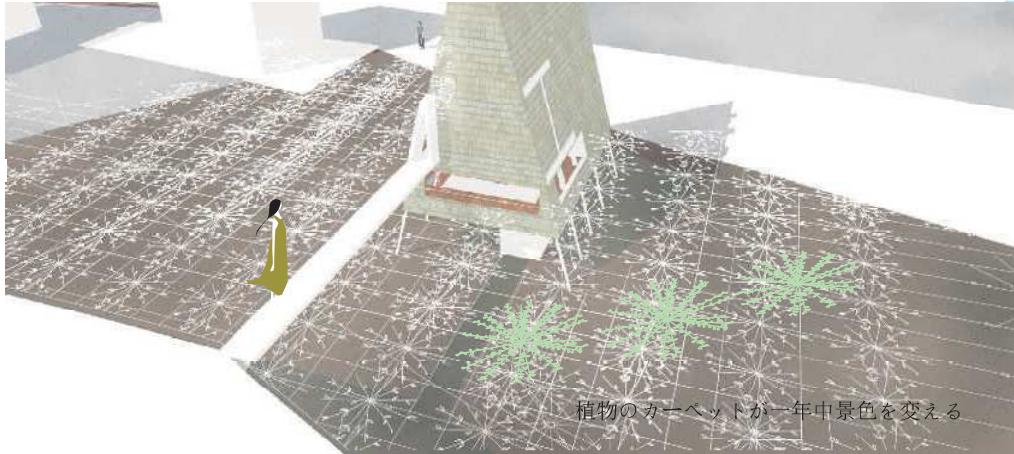
4 季節の設え



季節に応じて畠を地域に開放しながら梨を育む。落葉高木である梨は季節で葉が落ちることで夏と冬に異なる空間をあらわす。



section 1/200



富山のまちの核として地域に発信できる居場所

ここを訪れる人が思い思いの時間を過ごし、まち全体へつなぐきっかけとなる

